

令和6年度大学等の理系転換・拡充による人材育成機能強化会議

ポスターセッション、ポスターデーター一覧

◎参加校掲載ページ（本ファイルには赤字の大学等のポスターを掲載）

旭川市立大学	1	梶山女学園大学	32
北海道科学大学	2	日本福祉大学	33
青森大学	3	桜花学園大学	34
八戸工業大学	4	四日市大学	35
東日本国際大学	5	京都女子大学	36
共愛学園前橋国際大学	6	京都光華女子大学	37
城西大学	7	京都橘大学	38
東都大学	8	桃山学院大学	39
千葉工業大学	9	大阪電気通信大学	40
麗澤大学	10	追手門学院大学	41
神田外語大学	11	関西大学	42
青山学院大学	12	甲南大学	43
大妻女子大学	13	武庫川女子大学	44
北里大学	14	関西国際大学	45
駒澤大学	15	ノートルダム清心女子大学	46
芝浦工業大学	16	福山市立大学	47
中央大学	17	広島工業大学	48
東洋大学	18	広島修道大学	49
日本女子大学	19	安田女子大学	50
東京都市大学	20	下関市立大学	51
明治学院大学	21	山陽小野田市立山口東京理科大学	52
立教大学	22	周南公立大学	53
東京通信大学	23	松山大学	54
横浜市立大学	24	高知工科大学	55
神奈川工科大学	25	北九州市立大学	56
昭和音楽大学	26	福岡工業大学	57
富山県立大学	27	久留米工業大学	58
金沢学院大学	28	西九州大学	59
福井県立大学	29	南九州大学	60
長野大学	30	博多大学（仮称、大学設置認可申請準備中）	61
名古屋市立大学	31		

<基本情報>

改組予定年度：令和6年度

改組内容：学部の新設

設置等組織名：情報デザイン学部情報デザイン学科

入学定員：【R6新設】100名（90名に変更）

所在地：岡山県岡山市

ノートルダム清心女子大学は、リベラル・アーツ・カレッジとして真なる自由人を育成することによって、社会に貢献する人材を輩出してきました。そして、社会経済の進展と人材への要請をくみ取り、情報系とデータサイエンス系を有機的に結合した学部である情報デザイン学部情報デザイン学科を設立することで、新たなリベラル・アーツによる価値創造を可能とする人材育成を目指します。

情報デザイン学部 情報デザイン学科

新たなリベラル・アーツ
による価値創造

企業・自治体と協働した
PBL(Problem-based Learning、問題解決型学習)授業

情報系での学び

デジタル社会の
基本技術・仕組み

- [例] ● インターネット
● プログラミング
● アルゴリズム etc

セキュリティ
プライバシー保護

講師以上の教員のうち、
約半数が実務経験あり

リベラル・アーツ
文理の枠を超えた学び

- 全学共通科目
- マーケティング等、社会科学の学び
- 国際文化学部での開講科目

データ系での学び

統計学と
データ処理の手法

- [例] ● ビッグデータの
分析・活用
● 自ら集めたデータの
分析・活用 etc

リベラル・アーツを基盤とし、
文系理系の枠組みを超えた柔軟な視点で
社会の問題をとらえる力を養う

高大連携 DXハイスクール支援

情報デザイン学部：カリキュラム

・岡山大安寺中等教育学校

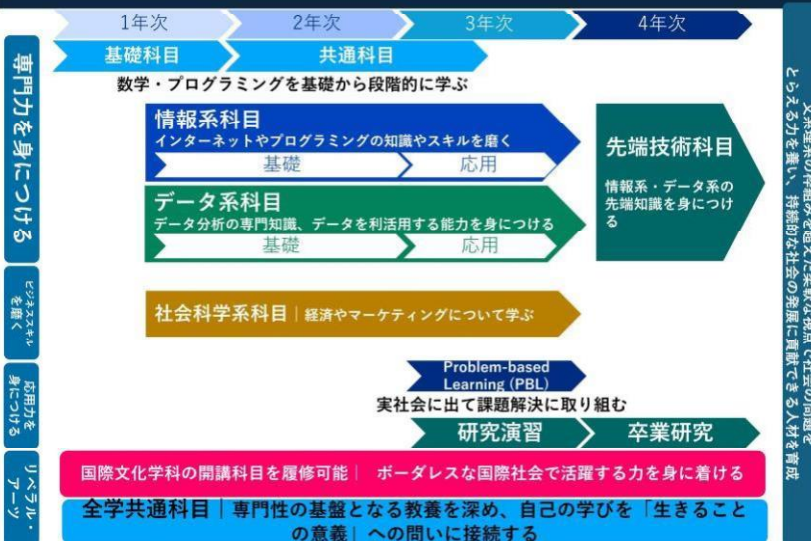
- ・生成AIを活用した実践的な教職員研修
・受講生（教職員）約50名
- ・データサイエンス入門（分析と仮説・検証）生徒向け（2/12）
- ・本学：教員2名、アシスタント役学生（1年生）2名参加

研修内容（職員向け）

- 生成AIの概念
- 効果的なプロンプト入力方法
- 絵やプログラムコードの作成
- 著作権、ハルシネーション
- 授業の利用に対する考え方の意見交換

研修内容（学生向け）

- データ分析と仮説・検証



PBL 産学連携

・PBL (Problem Based Learning)

- ・企業が直面する課題を学修課題に
- ・産業界との連携を開始
 - ・岡山県の代表的な企業
 - ・データ共有・システム要件定義

両備システムズ

百貨店周年 TENDAYA

・プレPBL (2025年度～)

- ・本格的PBL開始前の準備
- ・企業見学会・訪問



1. 基本情報

《改組予定年度》	2027年度（令和9年度）
《改組内容》	学部の新設 (当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの)
《設置等組織名》	情報工学部 情報工学科
《入学定員》	【R9新設】50名
《所在地》	広島県 福山市

NEW!



大学概要



〔開学〕 2011年（平成23年）4月
〔法人化〕 2021年（令和3年）4月
〔キャッチフレーズ〕 キャンパスは街、学ぶのは未来

2. 新学部の概要（特徴・コンセプト・教育内容）

- 取り巻く環境**
- 市内高校生の国公立大学理系学部への進学希望は多いが、市内に理系学部を有する国公立大学が無いと、多くの学生が市外大学に進学
 - かねてより、地元企業を中心とした産業界から、理工系人材の育成・確保の要望
 - 急速な人口減少・少子高齢化の進行やDXの加速度的な進展、脱炭素社会に向けた社会・経済システムの変革など、社会経済情勢が大きく変化

- めざす姿**
- 理系学部への進学をめざす学生の受け皿となり、進学・就職時の地元定着を促進
 - 地域の発展や企業の成長を支え、新たな価値を創出できる理工系人材の育成
 - 地域ニーズに応える教育研究活動の推進

新学部の主な方向性

- ① 学部間で連携した教育の提供**
新学部と既存学部にも相乗効果を生む教育プログラムの展開
- ② 実践的な学びの提供**
実務家教員の活用、PBL演習科目の実施等により、実社会で求められる力を養成
- ③ 学生の地元定着を促進**
インターンシップや寄附講座の実施など、地元企業等と連携した取組を通じて、地域や地元企業に対する興味・関心を醸成

3. 申請要件の概要

学生確保の見通し	・2023年度に「地域ニーズ調査」、「本学を取り巻く環境の分析」などを実施	社会ニーズ・企業等との事前協議	・有識者会議やヒアリングを通じて、商工会議所や地元企業等と議論・協議を実施
カリキュラム・入学選抜	【カリキュラム】 ・「情報工学の基礎知識」や「データサイエンスの理解・活用」を土台とした「実社会における課題の整理・解決能力」を養成 【入学選抜】 ・理数分野の理解力・論理的思考力・表現力を総合的に評価（一般選抜）、特定分野の能力や意欲を評価（学校推薦型選抜）	連携を通じた教育体制の整備と実施・多様な入学者の確保	【連携を通じた教育体制の整備と実施】 ・実務家教員による授業、企業と連携した寄附講座・PBL演習科目の実施など、産業界や福山市との連携を進展させた取組の実施 【多様な入学者の確保】 ・出前講座の実施や学内研究室の見学など、地域の初等中等教育学校との連携 ・出張講義等での女性研究者のロールモデルの提示等を通じた女子学生の確保 ・留学生向けの進学説明会、大学での学び・必要な日本語到達レベル等の情報発信等を通じた日本で就職を希望する留学生の確保 ・企業のリカレント・リスクリングのニーズに対応した公開講座の実施等を通じた社会人学生の確保
教育体制・教育研究環境	【教育体制】 ・情報工学を専門とする専任教員や実務家教員による体制を構築 【教育研究環境】 ・学生が自由に活動できるフリースペースや、無線LANなど安定したネットワーク環境を整備	寄附金、研究費等の外部資金獲得	・企業等との受託研究や共同研究の推進、科研費等の外部資金への積極的な応募、地元金融機関との連携による寄附に関する連携協定の締結、基金の創設
実務経験のある教員等による授業科目の配置	・クロスアポイントメント制度を活用した専門性の高い授業科目や、企業等での実務経験のある教員によるPBL演習科目、寄附講座として企業等からの講師派遣による発展的な授業科目を配置		

令和6年度までの取組状況



01 新学部設置基本構想の策定

① 学部学科の概要

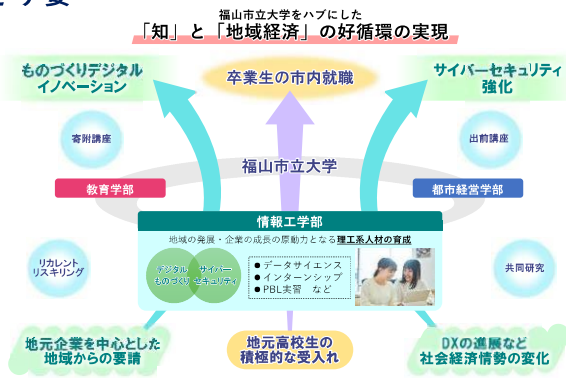
情報工学部情報工学科	
デジタルものづくりコース	サイバーセキュリティコース
コンピュータでのシミュレーションでのものづくりを行う知識・技術を習得	重要な情報を守るシステム設計・運用に関する知識・技術を習得

「企業等の即戦力となり、地域の未来を開拓できるエンジニア」を養成

② 定員

当初計画 50人 → 変更計画案 80人 (+30人)

③ めざす姿



④ 産学連携体制の下での構想推進

- 地元企業や高校等へのヒアリング調査、アンケート調査でニーズを把握
- 産学官の代表者で構成する「検討委員会」での議論・検討を重ね、基本構想を策定
- 引き続き、産学官の対話の場を持ち、協働で新学部構想を推進

02 実践的な教育プログラムの検討

① 企業等と連携したPBL実習

- 企業等と調整中
- 地元企業等と連携したPBL実習を通じて、実社会で求められる力を養成

② 企業等へのインターンシップ

- 企業等と調整中
- 学部での専門的な学びを活かし、2年次で基礎的な内容、3年次で応用的な内容のインターンシップを地元企業等で行い、実践力を養成

03 新キャンパス整備着手

① オープンな教育研究環境を整備

- 教員や学生間の物理的な垣根を排除し、自由な教育研究ができる環境を整備
- 専門的な教育研究の実施のため、デジタル関連機器を設置

② イノベーション共創スペースを地域や企業に開放

- 地域や企業等と最新のデジタル技術を活用した共同研究ができる「オープンラボ」や「ものづくりスタジオ」などの共創スペースを整備



【新棟イメージパース】

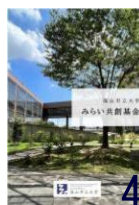
04 外部資金の獲得

① みらい共創基金の創設

- 新たに基金室の設置、「みらい共創基金」を創設

② 企業版ふるさと納税の活用

- 企業版ふるさと納税の寄附対象プロジェクトに、新たに「新棟整備プロジェクト」を追加



【基金リーフレット】

<基本情報>
改組予定年度：令和7年度
改組内容：既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）

【工学部】
・設置等組織名：
電子情報工学科 入学定員：【R7新設】110名
半導体技術を基本とした電子デバイスや回路などの電子技術と医用生体計測分野への応用に関する技術を持った人材の養成
電気システム工学科 入学定員：【R7新設】110名
従来の電力システムに加えグリーンエネルギーを支える人材の養成
機械情報工学科 入学定員：【R7新設】120名
Society5.0で実現する社会を支えるロボットやモビリティシステム、新素材に関する人材の養成

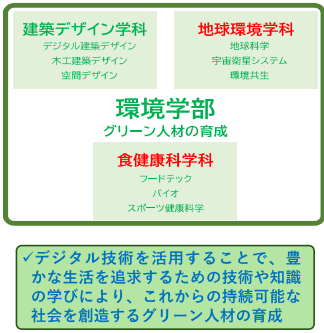
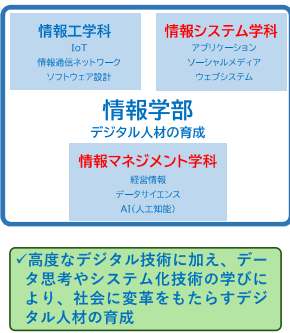
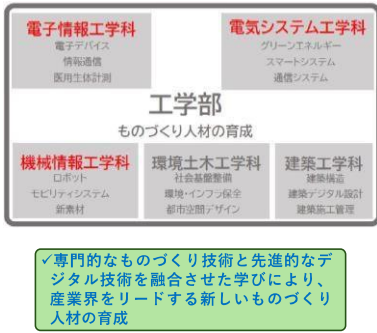
【情報学部】
・設置等組織名：
情報システム学科 入学定員：【R7新設】80名
現代社会の情報インフラである情報システムを支える人材の養成
情報マネジメント学科 入学定員：【R7新設】80名
データサイエンスを学び、それらを社会へ応用する人材の養成

【環境学部】
・設置等組織名：
地球環境学科 入学定員：【R7新設】100名
地球及び宇宙から得られる情報を活用し、地球環境を維持する人材の養成
食健康科学科 入学定員：【R7新設】90名
食や健康に関する諸課題の解決に取組む人材の養成

所在地：広島県広島市

申請要件に係る具体的内容

- ・中国四国地方において志願者の安定的確保を継続
- ・イベント型広報、訪問型広報や媒体型広報の実施
- ・新設学科設置に係る検討特別委員会における学修目標の具体化、教育カリキュラムの編成及び入学選抜の方針等についての議論の実施
- ・新設7学科による特定成長分野における理工系人材の育成の実施
- ・実務経験のある教員等による授業科目の時間数を2割以上配置
- ・外部講師（地元企業の技術者）による社会課題と結びついた学びの提供
- ・地元企業、団体、自治体との包括的連携協定による人材育成等に関する連携の推進
- ・旧来の工学系分野の専門技術者のみならず、その分野におけるデジタル化や分野を横断して思考できる未来を創造する理工系人材のニーズに対応するための7学科の新設
- ・本学と地元企業等で構成する広島工業大学地域連携技術研究協力会の加盟企業からの意見聴取及び外部資金獲得
- ・大学連携コンソーシアムや放送大学等との単位互換制度の実施
- ・多様な入学者の確保に向けた入学選抜の実施
- ・学生に対するきめ細やかな学習支援や経済的支援の実施



・改組後の教育内容

- ✓成長分野をけん引し、分野横断型の思考ができる未来を創造する人材の育成
- ✓それぞれの分野を横断した学びの機会を提供し、幅広い知識を身に付ける学び
- ✓既存の専門的な知識や技術を社会の諸課題の解決に応用する力を身に付ける学び
- ✓アントレプレナーシップの醸成により、未来を創造する力を身に付ける学び
- ✓グローバルマインドの醸成により、世界で競争できる力を身に付ける学び

✓本取組の特筆すべき点<その1>

- ・地域産業界や行政機関などの学外有識者で構成する外部評価委員会による教育内容及び入学選抜の評価等によるPDCAの実施
- P：学外有識者（地域の産業界や行政機関等）で構成する外部評価委員会との意見交換の実施及び社会や企業等からのニーズの調査
- D：ニーズに基づく教育・入学選抜の実施
- C：内部質保証推進委員会が外部評価委員会と連携し、養成人材の社会ニーズに基づく教育内容・入学選抜となっているかを評価・検証
- A：検証結果の教育内容等へのフィードバック

✓本取組の特筆すべき点<その2>

- ・小学生から高校生までを対象として初等中等教育段階との連携を幅広く実施
- ・シンポジウム開催による高校生、保護者や地域社会への成長分野の理解促進

学内の意識統一

- コンセプトブックを作成、教職員会で、全教職員に配付
- コンセプトの共有、改組への意識統一
- 新たな教育で育む“未来創造力”の理解

学外への情報発信

- 改組リーフレットを制作し、高校へ新学科情報を発信
- 新学科で養成する人材像や各学科の学びの内容を簡潔に説明
- 未来を拓くための+αの学びを紹介
 - ・分野横断探究教育
 - ・アントレプレナーシップ教育
 - ・グローバル教育

カリキュラムの検討

- “未来創造力”（人間力・専門力・社会実践力）を持つ人材を育成するためカリキュラムの検討・策定

↓

HIT.E-ACTION

DX、GXなど、ビジネスや社会の変革に不可欠な革新的な技術の学びや新しいことに挑戦できる機会を充実させるとともに、教職員が一体となって学生の成長プロセスを全力でサポートすることで“未来創造力”を持つ人材を育成する新しい教育プログラムを実施

新棟の検討・設計

- デジタルものづくりを行うHiroshima Making Hubの1施設であるFABLabを新棟に整備
- 学部内の縦と学部間の横のつながりを意識した設計

学びの情報発信

- 新設学科の学びを高校生や地域に紹介する公開シンポジウムの実施
- 今後の学生募集を見据えた大学案内の制作



引き続き産学官協議会でのご意見を踏まえながら、新学部構想を進める。



<基本情報>

- 改組予定年度：令和7年度 ■改組内容：学部の新設 ■設置等組織名：理工学部（生物科学科・情報科学科・建築学科）
- 入学定員：【R7新設】180名（各学科60名） ■所在地：広島県広島市安佐南区安東

<コンセプト及び社会的なニーズ・教育内容・特徴>

■生物科学科「植物の力で社会を豊かにする」

植物を中心に地球上の生命体を幅広い階層で解析し、生物の進化や多様性の本質、生命現象の普遍性を学び、2030年までに85億人に達すると言われる人口増大に伴う食糧問題、カーボンニュートラルの実現やバイオマス資源の開発など、持続可能な社会実現に寄与する知識と技術を有するグリーン人材の養成に貢献します。

■情報科学科「情報技術で未来を救う」

情報の量や品質を定量的評価する情報理論に基づいて社会課題を十分に理解し、社会に本当に必要な情報を発信する能力、情報システムの設計・開発・運用が行える人材を養成し、2030年には54.5万人不足すると言われる先端IT人材不足や、先進諸国と伍する我が国のデジタル競争力向上に貢献します。

■建築学科「想いを表現し、未来の建築を創る」

専門的知識・技能に加え、エネルギー効率の高い建物の設計・運用、再生可能エネルギーの活用、環境に配慮した材料の選定、既存住宅の再生など、グリーン分野を含めた広範な生活環境に対する状況把握能力や判断力、倫理観、創造力を備えた人材を養成します。住宅・建築物はゼロエネルギー住宅・建築物（ZEH/ZEB）推進の観点から、経済産業省「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」においてもエネルギー消費量削減に大きく影響する分野の1つとして選定され、人材養成と革新的技術の社会実装が求められています。

理論探究・実践展開の2コース展開

<<理論探究>>

生物科学コース

生物学の基礎研究を中心に、**ゲノム解析・遺伝子組み換え・品種改良・新規酵素の探求**などに取り組み、**生命の真理を追究する。**

<<実践展開>>

食・環境開発コース

花卉園芸、食品・発酵醸造などを学び、**生活を彩る食品や化粧品、高品質果実や野菜・花、エネルギー資源**などを**開発する力**を養う。

理論と実践の両面から生まれる相乗効果

プロジェクトや研究テーマに応じて、学年やコース、研究分野などを越えて横断的に学び、理論と実践の両面から多角的にアプローチすることで、より深く、広い視野を持つことができます。

オーダーメイドカリキュラム

情報技術3分野7領域から複数の学びを選び、修得スキルを自由にデザインする

デジタルメディア分野

- ① プログラミング領域
- ② Web領域
- ③ サーバ・ネットワーク領域

ヒューマンインターフェース分野

- ④ ヒューマンインターフェース領域
- ⑤ ゲーム開発領域

データサイエンス分野

- ⑥ IoT・データサイエンス領域
- ⑦ 人工知能領域

発信力

- ・WEBサイト構築
- ・ソフトウェア・アプリ開発
- ・サーバ構築
- ・ホワイトハッキング

表現力

- ・画像/映像編集
- ・仮想空間アバター作成
- ・メタバース技術
- ・仮想空間と現実の融合

問題解決力

- ・人工知能
- ・データ解析/課題解決
- ・IoTによる遠隔制御
- ・画像認識システム

感性豊かな建築家を育成する2つのコース

建築コース

1年前期～4年後期まで8学期にわたる設計演習を通して、製図用具の使い方など基礎から応用まで段階的に学びます。デザインを重視した意匠設計を中心に知識を深め、創造性の高い表現力を養います。4年次は、**学生一人ひとりに用意された個人設計スペース（スタジオ）**で学修。集中して設計作業に取り組むことができます。

空間デザインコース

現代の多様なライフスタイルに適応し、健康で快適な住空間、顧客を魅了する商空間、美しいランドスケープデザインなど、空間デザインを多角的に学びます。既存住宅の長寿命化や歴史的町並み保存など、既存の建築物がもつ固有の価値を最大限に引き出すとともに、**新たな価値を付加し再構成するリノベーションやコンバージョンの手法**を学びます。

<教育体制・環境の整備>

- ・一般社団法人「教育ネットワーク中国」を通じて、単位互換科目の提供・大学間連携を推進する予定。
- ・各学科に関連の深い企業・自治体等と連携し、独自の視点でニーズを収集し解決に取り組む連携プロジェクト(PBL)の展開を計画。
- ・理工学部の研究・実験に対応し各学科の人材育成を実現するため、延床面積約15,000㎡の新棟（理工学部棟）を建設（2025年完成予定）。
- ・教員組織については、国内外を問わず優秀な教員確保に向けて採用活動を実施（実務経験を有する教員による科目配置も計画）。
- ・地域連携・産官学連携により学生の実践的な学びを促進するため、学部開設時には新たに「地域連携センター」を設置予定。

<学生確保に向けた取り組み>

- ・高大連携・出張講義を展開し、多様な入学確保に向けて取り組む予定。社会人学生の確保に向け、社会人特別選抜の導入を計画。
- ・理工学部関連特設サイトアクサス教や高校生資料請求教、オープンキャンパス来場高校生数などの年度ごとの目標値を設定し、認知・興味の促進を図るほか、高校教員を対象とした説明会を行い、高校生だけでなく教員にも認知・興味の促進を図る。

<外部資金の獲得計画>

- ・既存の学部学科教員や新設予定の理工学部教員において、少なくとも科研費新規申請者を10人以上増やす目標を定める。実現に向けFD研修会や科研費説明会において申請促進を一層強化する。また、科学研究費に限らず奨学寄附や共同研究獲得に向け、教員に対して学内ポータルサイトやポスターを活用し、広く周知する。

教育体制・環境の整備 産官学連携協定の推進

理工学部では全ての学科において、社会や地域との連携を前提としたプロジェクト演習を重点的に展開します。大学で理論を学ぶだけでなく、大学の外に出て、行政や企業、地域の課題やニーズを収集し、必要に応じて他の専門分野と連携しながら多角的にアプローチすることで、自身の専門分野を基盤とした創造力・コミュニケーション力・課題解決力など、社会での即戦力を身につけることが出来ると考えています。2024年度は食・資源・環境・農業等に関わる分野の研究・教育活動、イノベーションの創出および地域社会の振興と発展、理系人材の育成に繋がるA I関連プログラム等に寄与することを目的に次の5団体・企業・自治体との連携を締結しました。

2024年度の主な連携協定先

- 2024.5 酒類総合研究所
- 2024.5 株式会社サタケ
- 2024.7 農林水産省中国四国農政局
- 2024.11 広島県観光連盟（HIT）
- 2024.12 広島県

※敬称略・時系列順



学生確保に向けた取り組み Rikoフェスの開催

文系・理系の枠組みに捉われず、多様な学生確保に向けた取り組みとして、2024年度は計7回にわたる理工学部体験イベント「Rikoフェス」を開催しました。理工学分野の教育研究内容を取り扱った模擬授業や社会との接点を学ぶ体験コーナー、ゲスト講演、企業参画ブースなど多彩なプログラムを展開しました。



一級建築士として活躍する女性ゲストによる講演会



学びと社会の接点を学ぶ理工系のお仕事探究コーナー

学生確保に向けた取り組み 高大連携公開講座/企業見学



2024.8.5 株式会社インタフェース様

産業用パソコンを中心として、トータルシステムソリューションを提供する広島県DX先進企業である株式会社インタフェース様に協力いただき、コンピュータの生産プロセスの解説や開発現場での製品の性能を評価する試験設備を見学しました。



2024.8.22 マイクロンメモリジャパン株式会社様

アメリカの半導体大手「Micron Technology」の日本法人であるマイクロンメモリジャパン株式会社に協力のもと、日本でも最大規模の半導体メモリ生産拠点である広島工場を見学しました。若手女性エンジニアの方からキャリアについてご説明いただき、また理工系分野を学ぶことの意義や進路選択のアドバイス、グループワークなども実施いただき、大学で理工系を学ぶうとする中高生にとって大変勉強になりました。



2024.8.22 福留ハム株式会社様

広島に本社を置き、食肉加工製造および販売を行う福留ハム株式会社様のご協力のもと、食品加工のプロセスと徹底した品質管理について学びました。また、社員の方から材料や器具の使い方を教わり、ウイナー作りを体験しました。混ぜ合わせた材料は、専用の器具を用いて協力しながら腸詰めを行い、個性あふれるウイナーを作り上げました。

完成予想イメージ



新棟は本学が女子大学として日本初の理工学部開設に伴い、新しい分野（大海原）へ挑戦（船出）をコンセプトに帆船をイメージしたデザイン。



施工中の様子(2024.10時点)



< 基本情報 >

改組予定年度：令和6年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：データサイエンス学部データサイエンス学科
入学定員：【R6新設】80名
所在地：山口県下関市

【特筆すべき内容と評価された点】

○申請要件③
社会のニーズを踏まえたカリキュラムを設定し、それに対応できる学生を確保するための入試方法を設定している点

データサイエンス学部データサイエンス学科 新設

設置構想に関する事前協議

・2020年、下関市が設置した「下関市立大学新学部設置に関する有識者会議」がデータサイエンス学部設置を適当と答申

企業からの高い人材ニーズ

・企業調査を実施（2022.12～2023.1）
・237箇所（89.8%）が「本学が養成する人材の社会的ニーズが高い」と回答、うち174箇所（65.9%）が採用意向あり

十分な学生確保の見通し

・高校2年向け調査を実施（2022.11～2023.1）
・回答78高校のみで入学定員を上回る入学希望「合格した場合、入学したい」126名>定員80名

養成する人材像<特徴・コンセプト>

多様なデータを設計・分析・活用するために必要な数理統計・情報学・社会科学に関する理論と実務に習熟することにより、社会や組織が抱える課題の解決や新たな価値の創造に貢献する人材を養成

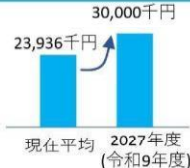


地元企業との連携



外部資金の獲得

科学研究費補助金の獲得額の増加等により総額30,000千円を目指す



社会のニーズを踏まえたカリキュラム等

専門基礎

データサイエンスに関する数学や情報、プログラミングに関する基礎知識を修得したうえで、統計的分析手法や人工知能を含むアルゴリズムに関する幅広い知識とデータ分析・活用の技能を身につける。

線形代数学、解析学、アルゴリズム論、データサイエンス
科目例 入門・演習、回帰分析、定量的データ解析、人工知能概論、データ分析演習 など

基礎教育・教養教育

●外国語 ●リベラルアーツ ●下関学 ●キャリア教育 ほか

※経営コンサルティング（事業戦略立案・企業変革）やデータサイエンス・DXプロジェクトの経験を有する実務家教員による授業科目を配置
※上記に対応できる学生を確保するため、大学入学共通テストで外国語・数学を必須とし、個別学力検査で小論文（前期）、数学（中期）を課す

専門応用

ビジネス又はヘルスケア分野のデータの分析を学び、実社会で活躍するための実践的な知識を修得する。

ビジネスデータサイエンス

科目例 経営情報概論、情報システム論、経営情報システム論、Eコマース論、オペレーションズリサーチ など

ヘルスデータサイエンス

科目例 保健医療学概論、疫学・公衆衛生学概論、遺伝学概論、感性データ処理、薬理学概論、医療健康情報学 など

適切な教育体制・教育研究環境

・講義のほか、実習、アクティブ・ラーニング型科目、演習科目やプロジェクト型学習科目を配置
・新校舎建設による教室や研究室の確保・充実
・高性能パソコン等の配備

多様な入学者の確保

・女子学生が地元高校等を訪問し、理系学部の魅力等を紹介
・高校訪問や出張講義の実施

2024年度取組状況

事業経過

Ph	年月	内容
1	2021.11	下関市が2つの学部を設置することを市議会で報告
	2022.04	下関市立大学に新学部設置準備室を設置
	2022.12	データサイエンス学部の新校舎建設 市議会議決
	2023.03	データサイエンス学部設置認可申請
	2023.09	データサイエンス学部設置認可
2	2023.11	データサイエンス学部の新校舎 完成
		新校舎 設備備品等購入設置開始
	2023.12	
	2024.03	新校舎 竣工式
3	2024.04	データサイエンス学部開設（1年生88人入学） 基幹教員17人中15人着任 
		データサイエンス学部 開設記念シンポジウム 日時：2024.10.12(土)10時～/会場：本学B講義棟 次第：主催者あいさつ、来賓あいさつ 記念講演（滋賀大学 竹村彰通学長） パネルディスカッション 参加者：170人 

多様な入学者の確保に向けた取組

●地域の高等学校・中等教育学校との連携

山口県立下関西高等学校
(スーパーサイエンスハイスクール)

2024.08 出張講義、包括連携協定締結

講義テーマ：「データを科学する
～統計学とデータサイエンス～」
2024.09 「発展探究」中間報告会
本学教員が指導・助言

山口県立下関中等教育学校
(DXハイスクール)

2024.08 4回生(高1)・5回生(高2)が本学を訪問

4回生：データサイエンス学部の説明など
5回生：ゼミ訪問
研究テーマ：レノファ山口の観客動員数を増やすには
2024.10 中等教育学校教員向け研修会
データサイエンス学部の紹介、データサイエンスに必要な基礎知識などを説明

●リメディアル教育の実施

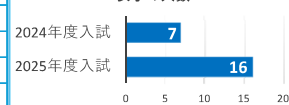
文系理系を問わずデータサイエンスに興味や関心、学ぶ意欲のある入学者を確保し、学生がデータサイエンティストとして必要な能力を身につけるため、基礎となる数学や情報（プログラミング）について、リメディアル教育を実施

●女子学生の確保に向けた取組

データサイエンス学部オープンキャンパス（2024.09）において「理系女子（リケジョ）相談コーナー」を設置。データサイエンス学部の女子学生5人が「どんなことを勉強するの?」「どんな大学生活を過ごしているの?」といった質問や相談に学生目線からアドバイス。

区分	定員	合格者のうち女子の人数	
		2024年度入試	2025年度入試
学校推薦型選抜	30人	7人	16人
一般選抜	50人	20人	未実施
入学者	—	23人	—

学校推薦型選抜合格者のうち
女子の人数



●リカレント教育等

年度	プログラム	受講者数
2023	しものせき地域DX人材育成リスキリングプログラム（履修証明プログラム）	16人
	ビジネスデータ分析スキルアップコース	4人
2024	Excel関数の使い方と活用スキルアップ	12人
	しものせき地域DX人材育成リスキリングプログラム（履修証明プログラム）	9人
年度	内容	参加者数
2024	下関商工会議所主催「DX人材・成功事例を知る DX先進視察ツアー」で本学を視察。学部説明と教員紹介、意見交換等を実施。	28人

基本情報

改組予定年度	令和6年度
改組内容	学部の新設
設置等組織名	情報科学部情報科学科
入学定員	【R6新設】100名
所在地	山口県周南市



新設や改組の特徴・コンセプト

ビッグデータに対して付加価値の創造を担う有為な DX 人材（「3本の矢」を身に付けた人材）を養成

- ①データサイエンスプログラム : 数理モデル、シミュレーション、AI、ビッグデータ分析などの手法を学ぶことで、自然や社会に存在する膨大なデータから真理やビジネスに活用できる知見を引き出す能力を習得し、グローバルな視点から地域社会と地域産業の持続と発展のために寄与できる人材を養成
- ②情報エンジニアリングプログラム : 情報システム、情報ネットワーク、情報セキュリティ、IoTなどの高度な情報技術を学ぶことで地域社会と地域産業の高度な ICT化をリードし、グローバルな視点から地域社会と地域産業の持続と発展のために寄与できる人材を養成
- ③ビジネスアナリティクスプログラム : ビッグデータを集め分析することで現状を把握し、未来を予測した計画をたて、経験や勘に頼らないビジネスを展開する能力を習得し、DXに基づいて地域社会と地域産業のイノベーションをリードし、グローバルな視点から地域社会と地域産業の持続と発展をデザインする人材を養成

改組後の教育内容

- ③つのプログラムから複数のプログラムを選択することで予測困難な時代を生き抜くための複合的な力を修得
- ③データサイエンティストとしての実務経験豊富な専任教員や現役のプロントランナーである専任教員による授業により、実社会に必要な情報科学の知識・技術を修得
- ③周南地域の産業と連携した教育によって、地域創生の原動力となる力を養うことが可能
- ③2年次第2学期から3年次第1学期までの授業科目数が少なくなり集中した学びが可能
- ③3年次第2学期には実務に即応した授業のみとする事で長期インターンシップや海外留学、あるいはボランティア活動などの経験を積むことを奨励することが可能
- ③3つのオムニバス型PBL科目によって、データ取得・データ加工・クレンジング、データ分析、評価、ビジネス・実社会への実装を検討までを実践
- ③高度にe-learningを導入した基礎的な英語教育および、世界の最先端に通じるための実践的な専門英語教育

特筆すべき内容と評価された点

留学者を推進するために科目配置を工夫するとともに、海外インターンシップを行う点を評価

(情報科学部は3年次第2クォーターに、長期インターンシップや海外留学、ボランティア活動等を推奨するために必修科目を配置せず、配当科目はすべてハイブリッド講義あるいは遠隔講義とし、研修先や海外からでも受講できる体制を整える。)

申請要件②～⑤、⑦、⑪、⑫の内容

申請要件②

令和4年10月に山口県及び近隣県に所在する高等学校の2年生（15,783名）に対し、周南公立大学新設学部設置構想についてのアンケート調査を実施し、情報科学部の進学意向は、「受験したい」が910人、「入学したい」が157人、「入学するか検討したい」が746人となっている。進学意向の回答者に対して入学したいが157人となり、入学定員の1.57倍という結果を得た。

申請要件③

情報科学の基本的な知識・技能を学ぶ基礎科目や、プログラミング基礎科目、数学系科目を情報科学基礎領域の1～2年次に配置し、2年次以降については各プログラム別に科目を配置する。なお、このようなカリキュラムに対応できる人材を確保するため、情報科学部では、アドミッション・ポリシーに基づき、大学入学共通テスト及び本学独自試験を用いて、高等学校卒業程度の基礎学力、及び、論理的思考に基づき一定の答えを導き表現する力を有しているかを確認する一般選抜、個別学力検査で多岐に優秀な学生を確保する学校推薦型選抜を実施する予定である。

申請要件④

情報科学部が入る11号館（5階建て、延べ床面積約4,351㎡）は、令和4年3月に大規模改修工事が終了し、200名以上収容可能な大講義室1室、80名以上収容可能な実習室4室、40名以上収容可能な中講義室4室、20名以上収容可能な小実習室2室、ゼミ室3室を整備し、各講義室、実習室を効果的に使用することで、教育研究上支障なく使用することができる。また、情報科学部設置に伴い、令和5（2023）年度内に全校舎のネットワーク設備を再構築し、全校舎でオンライン授業やオンデマンド授業が快適に行えるよう整備する計画である。

申請要件⑤

データサイエンティストとして実際に現場で活躍した経験のある実務家を専任教員として配置しており、実務経験に基づいたより実践的な教育を実施する。また、企業や行政においてAIやデータを実装すること、地域企業におけるDX業務やデータ活用の実践を実務家にゲストスピーカーとして紹介してもらう講義を実施する。

申請要件⑦

周南市に本社・本店を置く地域の企業とDXの推進について、人材育成の可能性を見出すための事前協議を令和5年度中に行い、フェーズ2の対象期間となる令和6（2024）年4月以降、各企業と連携したPBL教育を行えるよう準備を進める。

申請要件⑧

外部資金獲得額の申請時点の平均は20,909千円であるが、フェーズ3の助成期間終了時までには40,000千円を目指す計画である。

申請要件⑫

完成年度以降に向けて近隣の高等教育機関と連携し、他大学の専門科目を受講することで卒業単位の一部を認定することにより、将来多様な領域で活躍するきっかけを作る計画である。また、多様な入学者の確保に向けた取組については、周南圏域の高校と高大接続・連携を強化するために、高校生データ分析キャンプ等を実施し、適切なデータ活用ができる人材を育成する。さらに、社会人に対しては、スキルアップにつながるテーマ・講義を用意し、修了者に対しては履修証明プログラムを発行することで、社会人の学び直し、編入学選抜に繋げる予定である。

特に力を入れて実施した取組や特徴がある取組の概要

【令和5年度】

- 令和5年度中に情報科学部学生が全館で授業の受講、及びサーバによる実習が可能なようにネットワーク整備を実施。
- AI、機械学習及びデータ分析等の実習、実験ができるようにAIサーバの構築を実施。
- 電子教材を作成し、オンライン授業やオンデマンド授業で活用する準備を行った。

【令和6年度】

- データサイエンティストの実務家を教員に招聘し、実践的な教育プログラムを構築。企業や地域のDX事例を講義に取り入れ、地域貢献にも繋がる人材育成を目指す。
- 多様な入学者の確保するために、周南圏域の高校と高大接続・連携を強化し、高校生向けDXセミナー等を実施し、適切なデータ活用ができる人材を育成している。
- 3年次第2クォーターに、長期インターンシップや海外留学、ボランティア活動等を推奨するために必修科目を配置せず、配当科目はすべてハイブリッド講義あるいは遠隔講義とし、研修先や海外からでも受講できる体制を整える。
- 海外留学先として東南アジア（タイ、インドネシア、カンボジア、マレーシアなど）、アジア（韓国、中国、台湾など）の大学と国際交流協定についても検討を進め、1週間～2か月程度の海外インターンシップ等の検討を進める。
- 地域DXを加速させるため、地元企業とのDX共同研究を推進。



育成する人材像

情報・デジタルの専門的知識・技術だけでなく、それを人と社会のために活用する際に必要な、論理的思考力、課題発見・解決力、共感力、コミュニケーション能力といった他者と協働できる力等の汎用的技能及び現代社会に必要な教養を身に付け、情報システムやメディアデザインに関する技術から新しい価値を創造し、デジタル技術の導入や運用を推進していく人材

専門教育（ITスキル標準Lv.3～4相当）

情報システム分野

情報・デジタル技術を活かすために不可欠な情報システムやアプリケーションソフトなど、基盤となる新たな仕組みを開発し、社会の課題解決を担う人材となるため、プログラミングをはじめ、データベース、ネットワーク、情報セキュリティなど、システムやアプリの開発に必要な知識・技術を幅広く学ぶ

メディアデザイン分野

様々なメディア技術の中から最適な方法を選択し、それを社会の課題解決に活用できる人材となるため、デジタルメディアの基礎から学びをスタートさせ、映像制作（VR、AR）、SNS活用、Webデザイン、CGアニメーションなど、実践的な知識・技術を幅広く学ぶ

専門基礎教育（ITスキル標準Lv.2 相当）

「基本情報技術者試験」を全員受験

一般教育（ITスキル標準Lv.1 相当）

専門科目

基礎科目、
専門核科目、
専門関連科目、
PBL型科目、
演習、実習

身につけたスキルを社会の中で
活かす方法も併せて学ぶ

他学部 連携科目

経営
学部

人文
学部

教員・学生交流
施設利用
単位互換



他 大 学

政策・ニーズ



産官学連携

地方自治体

実務家教員の派遣

産業界のニーズ

産官学連携

PBL型科目

インターンシップ

企 業

高大連携

高大接続

愛媛県教育委員会・高等学校等

官民連携コンソーシアム

外部評価委員会

県と県内大学の連携協定

基本情報

改組予定年度：令和7年度

改組内容：学部の新設

設置等組織名：情報学部情報学科

入学定員：【R7新設】120名

所在地：愛媛県松山市

学びの特徴

地域のニーズを取り込んで、地域・企業が持つ具体的な課題を題材に、地域や企業と協働したPBL型教育を行うことで、課題の解決に取り組みながら、学生たちに学んだ知識や技術を社会の中で活かす方法を実践的な教育を実現

様々な分野の実務家教員の配置により、社会に直結した学びを推進

キャリア教育、キャリア支援

「愛媛県官民連携IT人材育成コンソーシアム」による自治体や企業と協力関係に基づき、インターンシップや就職支援等を実施

教育の質保証

基本情報技術者試験の合格を原則必須とし、ITスキル標準Lv.3～4の資格取得を目指すことで、客観的に質を保証。また愛媛県や企業と協力して、教育の質に関するPDCAを評価するための外部評価委員会を設置し、教育体制・教育研究環境の継続的な向上を実現

他大学等との連携

愛媛県と県内大学による連携協定に基づき、デジタル人材の育成・確保、教員・学生の人的交流、施設・設備の相互利用、調査、研究の4つの事項で連携する

外部資金

科研費等、受託研究、施設設備寄付金、共同研究事業の獲得を奨励

多様な入学者の受け入れ

女性に配慮した施設整備や女性教員の積極的な採用を計画
ジェンダーバイアスをなくしていくための取組を推進

設置準備

愛媛県の掲げる「あたらしい愛媛の未来を切り拓くDX実行プラン」の取組と連携。

高校のニーズ調査に基づいた定員設定。愛媛県立高校再編による情報系コース等の増設や各校の情報教育の強化にも対応

愛媛県教育委員会と連携して高大連携・高大接続を推進

地域のミライを創造するデジタル人材育成

特に力を入れて実施した取組や特徴があるとする取組など

- 新学部への入学意向・採用意向を確認するための調査実施
- 情報学部設置に係る教員の採用活動・カリキュラムの検討
- 松山大学として初めての女性教員限定公募
- 情報学部の広報に関するホームページ・パンフレット作成
- ミライ体験ツアーや訪問型オープンキャンパスの実施
- 情報学部開設記念講演会の開催
- 情報学部棟（仮称）の建設のための基本構想
- 新学部棟の新築工事（フェーズ2）



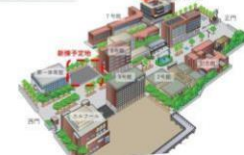
松山大学情報学部



<https://informatics.matsuyama-u.ac.jp/>



文京キャンパス



「実学」を身につけるカリキュラム 協力企業・団体様 68社

在学中から社会とつながる7つの科目

プロジェクト科目

- 1年次 「プロジェクトデザイン」
講義・演習型
- 2年次 「プロジェクト実践」
講義・演習型
- 3年次 「マネジメント実践」
講義・演習型

キャリア形成支援科目

- 1年次 「キャリア探索」
オムニバス講義型
「キャリアプランニング」
講義・演習型
- 2年次 「キャリア教育実践」
講義・実習型
- 3年次 「地域連携インターンシップ」
実習型



※表示されているのは協賛団体をいただいた企業様のロゴです。

2026年4月～情報学部棟（仮称）



高知工科大学データ & イノベーション学群

AI・データサイエンス専攻／デジタルイノベーション専攻

基本情報

改組予定年度：令和6年度

改組内容：学部の新設

（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）

設置等組織名：データ & イノベーション学群

入学定員：【R6新設】60名

所在地：高知県香美市土佐山田町、高知県高知市永国寺町

特筆すべき内容と評価された点

- 学外者も利用できる新棟の建設及び全体の約半数の教員が協同で教育研究活動を実施する体制を整備する点
- 女子学生に限定した学校推薦型選抜や女性エンジニア育成支援センターによる取組など、女子学生の確保についての取組

多様な入学者の確保に向けた取組

一般選抜に加えて、総合型選抜や女子学生に限定した学校推薦型選抜により6割程度の学生を確保する（1期生実績：女子率35%・県内生率35%）

- デジタル・ファーストではなくイノベーション・ファーストを完遂すべし
- イノベーションを起こすための俯瞰的構想と仕組みづくりに焦点をあてるべし
- デジタル技術はプラン実現のためのツールに過ぎないと心得るべし

教育体制や教育研究環境の整備（左下図参照）

県内の諸課題解決や地域イノベーション創出の一助を担う使命を果たすため、様々な学外者が利活用できる新棟を建設（令和6年9月着工）

学修目標の具体化・体系的な教育カリキュラムの編成（右下図参照）

AI・データサイエンスを含む工学的視点と社会に対する俯瞰的な視野を武器に、既存システムやビジネスモデルにイノベーションをもたらし、次世代技術に基づいた社会を先導する人材を育成する

高知市中心部に建設中
来年度末に竣工



1-2F: 地域に開かれたスペース
(コワーキング・イベント・グループワーク等)



データ系科目群			データ&イノベーション統合のための科目群			イノベーション系科目群			
分野	AI/データサイエンス	データエンジニアリング	エンジニアリングリベラルアーツ	デジタルビジネス	事業創造	ビジネスリベラルアーツ	ビジネス基礎	ビジネスバリエーション	
能力	機械学習・統計解析	ITアーキテクチャ・セキュリティ	ものづくり基礎理解	デザインシンキング	課題発見・分析・価値創造	人間活動の基礎理解	経営・マーケティング	社会・企業	
3年	機械学習・統計解析		ものづくり基礎理解	デザインシンキング	課題発見・分析・価値創造	人間活動の基礎理解	経営・マーケティング	社会・企業	
	機械学習・統計解析		ものづくり基礎理解	デザインシンキング	課題発見・分析・価値創造	人間活動の基礎理解	経営・マーケティング	社会・企業	
	機械学習・統計解析		ものづくり基礎理解	デザインシンキング	課題発見・分析・価値創造	人間活動の基礎理解	経営・マーケティング	社会・企業	
	機械学習・統計解析		ものづくり基礎理解	デザインシンキング	課題発見・分析・価値創造	人間活動の基礎理解	経営・マーケティング	社会・企業	
	機械学習・統計解析		ものづくり基礎理解	デザインシンキング	課題発見・分析・価値創造	人間活動の基礎理解	経営・マーケティング	社会・企業	
2年	データ工学のための数学2		ネットワークシステムとセキュリティ	情報ネットワーク基礎	データサイエンスの実践	データマイニング	インターネットシステム	データ工学のための数学1	情報科学2
	データ工学のための数学2		ネットワークシステムとセキュリティ	情報ネットワーク基礎	データサイエンスの実践	データマイニング	インターネットシステム	データ工学のための数学1	情報科学2
	データ工学のための数学2		ネットワークシステムとセキュリティ	情報ネットワーク基礎	データサイエンスの実践	データマイニング	インターネットシステム	データ工学のための数学1	情報科学2
	データ工学のための数学2		ネットワークシステムとセキュリティ	情報ネットワーク基礎	データサイエンスの実践	データマイニング	インターネットシステム	データ工学のための数学1	情報科学2
	データ工学のための数学2		ネットワークシステムとセキュリティ	情報ネットワーク基礎	データサイエンスの実践	データマイニング	インターネットシステム	データ工学のための数学1	情報科学2
1年	データ工学のための数学1		情報科学1	情報科学2	情報科学3	情報科学4	情報科学5	情報科学6	情報科学7
	データ工学のための数学1		情報科学1	情報科学2	情報科学3	情報科学4	情報科学5	情報科学6	情報科学7
	データ工学のための数学1		情報科学1	情報科学2	情報科学3	情報科学4	情報科学5	情報科学6	情報科学7
	データ工学のための数学1		情報科学1	情報科学2	情報科学3	情報科学4	情報科学5	情報科学6	情報科学7
	データ工学のための数学1		情報科学1	情報科学2	情報科学3	情報科学4	情報科学5	情報科学6	情報科学7

※ 応用・実践系（PBL）の科目群は、授業・修習・修習プログラムで科目群ごとに見直し、必要に応じて変更される。

※ 令和5年度4月文部科学省大学設置基準提出目標より、一部科目の名称が変更になっています。

開設記念式典（5月）



1期生の歩み



チームビルディング（9月）

第1期・10PBL（最終30）
※6名/1グループ（縦割り）

PBL準備（10-12月）PBL始動（1月）

数学でも取り入れている
グループワーク（1学期）

Faculty of Information for Innovation

新しいをつくる人になる

2027年4月
情報イノベーション学部新設
(仮称・設置標準中)



学部名称（改組内容）	情報イノベーション学部（学部の新設）
入学定員	118名（収容定員472名）
学科名称	情報エンジニアリング学科（入学定員：68名） 共創社会システム学科（入学定員：50名）
学位	学士（情報工学）
開設時期	2027年（令和9年）年4月
新校舎設置場所	福岡県北九州市小倉北区（予定）

情報イノベーション学部で養成する人材

情報エンジニアリング学科

〈養成する人材〉情報工学の先端技術を駆使する高度人材

〈教育内容〉

AI、ロボティクス（ロボット工学、センサー技術等）、セキュリティ（暗号化技術等）、画像処理、データ構造設計とアルゴリズム開発



共創社会システム学科

〈養成する人材〉GX推進や地域社会の課題解決に寄与するデジタル人材

〈教育内容〉

エネルギー環境学、環境経営戦略、環境ビッグデータ解析、ソーシャルビジネス 等



カリキュラムの特色

〈コンピュータエンジニア〉

情報ネットワーク設計

ロボティクス

ネットワークとセキュリティ

コンピュータアーキテクチャ

情報理論

画像処理とAI

生成AI入門

最適化理論

自然言語処理とAI

データマイニング

コンピュータシステム

データ構造とアルゴリズム

〈グリーンデータサイエンティスト〉

地理空間情報学

マーケティングサイエンス

環境経営戦略

環境ガバナンス

エネルギー環境学

環境ビッグデータ解析

資源循環解析

価値創造とビジネス

リスク評価入門

生体計測学

感覚と知覚の科学

認知心理学

行動分析

情報イノベーション学部

グリーン・データサイエンスPBL

循環経済・資源循環DS

新エネルギーDS

共創DS

統計学

デザイン思考

チームビルディング

情報倫理とプライバシー

金融リテラシー

情報エンジニアリング学科

共創社会システム学科

大学と企業が協働で
社会が求める即戦力人材を養成

●本学教員と企業のメンターが協働で実際のビジネス課題をもとに**実践教育PBL**の実施

●学生が長期で市内企業の日常業務に就き、専門的な職業経験を積む**ジョブ型(長期型)インターンシップ**

●起業マインドを醸成し、起業に関する専門知識等を学ぶ**アントレプレナーシップ教育**

●地元企業の技術者・専門家による講義

令和6年度の主な取組

1. 産学連携協定に関すること

・産学連携協定（教育及び人材育成・共同研究・地域貢献）のスキーム整備と企業への周知

・令和6年度内に10社、学部開設までに20社、将来的に50社との締結を予定

（令和6年12月に第1号となる産学連携協定を締結）

2. 新校舎建設に関すること

・教育・研究、企業連携を一体とする特色を最大化するためIT企業等が集積する小倉都心部（小倉駅から徒歩11分、旦過駅から徒歩2分）に新校舎の設置を決定

・設置団体である北九州市の支援のもと、新校舎の設計業務を実施

3. 入学志願者の確保に関すること

・多様な志願者、女子学生増を意図した広報用特設サイト（HP）を作成

56

<基本情報>

改組予定年度：令和6年度
改組内容：既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
設置等組織名：情報工学部情報マネジメント学科
入学定員：【R6新設】90名
所在地：福岡県福岡市



<情報マネジメント学科の特徴・コンセプト>

経営工学×データサイエンスで社会を変える

課題解決エンジニアを育成

組織がもつ情報を活用し、ビジネス上の課題を数理的なアプローチで解決・効率化する「経営工学」。そこに数学やプログラミングの技術でデータを分析する「データサイエンス」を掛け合わせ、根拠を持って社会に幸せな変化をもたらすことができる課題解決エンジニアを育成します。

<情報マネジメント学科の教育内容>

01 デジタル時代のビジネスをリードする専門的な学び

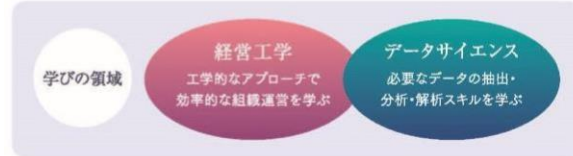
「経営工学」と「データサイエンス」は深く関わり合っています。その両方を専門的に学ぶことでさらに理解を深め、ビジネスに活かせる応用力や解決力を身につけます。

02 地域や企業・自治体と連携した実践的な学び

修得した知識・技術を実社会で応用する実践的な学習として、地域・企業・自治体と連携したPBL（課題解決型学習）を実施し、マネジメント力や課題解決能力を身につけます。

03 世界で活躍するグローバル人材を育成する

世界に求められるグレートイエンティストを育成するため、国内外のゲスト講師による講演や海外研修などのグローバルプログラムを取り入れ、グローバル人材を育成します。



<申請要件>

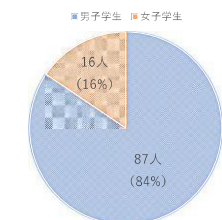
- ②十分な学生確保の見通しを備えた計画
⇒進学意向調査結果：入学定員90名に対し、入学意向1,127名〔回答者全体7,953名に占める割合14.2%〕 【2023年6月認可：収容定員の総数の増加】
- ③産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編制、学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜の実施
⇒3つのポリシー（DP、CP、AP）に基づき、学修目標の具体化、体系的な教育課程の編制ならびに入学者選抜が実施できる体制を構築している。
- ④特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備
⇒「ITスキルやデータサイエンスに関する知識と技術及び経営工学に関する知識の修得とともに、情報の活用による組織の価値を高めるためのマネジメント手法を修得させる教育を行い、情報処理と情報分析に関する理論や手法を組織活動の場面に適用することができる行動力をもって、組織の知力の向上や組織の価値の創造に貢献できる人材を養成する」という教育研究上の目的に基づき、適切な管理・教育体制を構築し、教育研究環境を整備している。
- ⑤実務経験のある教育の配置計画
⇒実務経験のある専任教員を複数配置（さらにクロスアポイント制度を利用し企業の技術顧問として実務に就く教員も配置）
- ⑦地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等との事前協議
⇒地元民間企業とFintech分野でのAI・データサイエンスを中心とした教育内容を協議 ※Fintech＝金融（Finance）＋技術（Technology）の造語
- ⑪大学全体の外部資金獲得計画
⇒令和9年度までに寄附金、研究費等の外部資金を年間で243,000千円獲得する計画である。（申請時の平均獲得金額から10%拡大）
- ⑫自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施
⇒近隣自治体（古賀市・新宮町等）との連携PBLや海外協定校（タイ・キングモンクット工科大学）との相互派遣プログラムの実施
- ⑬多様な入学者の確保に向けた取組
⇒多様な入試制度を実施（一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜、有資格者選抜、帰国子女および国際バカロレア資格取得者選抜等）

学科の新設に係る各種取組み状況について

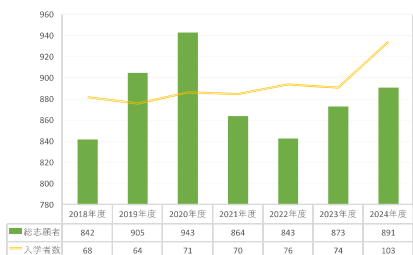
<R6年度 新設学科状況>

情報マネジメント学科：志願者数891名、合格者数501名、入学者数103名

入学者男女比率（2024年度）



当該学科の学生推移（過去5カ年）



個別最適化するカリキュラム

- ～特徴～
- ・「経営工学」「データサイエンス」「共通科目」の3つの科目分野を設置
⇒学びを関連付けながら理解を深める
- ・3年次には「経営工学」「データサイエンス」の領域から必要な科目を自在に選択して学ぶことができる



<施設環境整備>

講義の自動収録・アーカイブ化を実現

- [主な取組]
- ハイブリッド授業の実質化等、学内における教育DXの推進を目指して・・・
- 講義収録配信システム **Panopto** の導入
⇒教員がカンタンに授業の収録・編集・配信が可能に
- 教員に負担をかけずに講義動画の作成・配信が可能に！
⇒学生の**学びの振り返り**を促進

[今後の予定]

- 2025年3月：無線映像投影機器、AV機器一式管理システムの導入
⇒授業内外において、学生のAI高度化に資する支援ツールを活用し、**自律的に考え、行動し、様々な分野で創造性を発揮できるような実践型人材の育成**を目指す



<開設記念イベントの開催>

2024年6月22日（土）**情報マネジメント学科の開設記念シンポジウム**を開催



□基調講演

「経営工学×データサイエンスで社会を変える」



□パネルディスカッション

「地域社会におけるデジタルトランスフォーメーション」
「将来求められる課題解決型エンジニアの人材像と役割」

[パネリスト]

- ・データサイエンス関連企業
（大手流通関連企業、地場金融関連企業）
- ・行政（福岡市観光文化局）
- ・福岡工業大学 情報工学部長



<基本情報>

改組予定年度:令和8年度

改組内容:既存学科の収容定員の増加

設置等組織名:工学部情報ネットワーク工学科

入学定員:【R8増員】改組前90名 → 改組後110名

所在地:福岡県久留米市

AI・データ分析×well-being工学による地域DX人材の育成

人生100年時代の地域社会課題の発見・解決に取組み、地域の人々が多様な幸せ(well-being)を享受する社会を実現

情報ネットワーク工学科の取組み

データ分析の基礎的素養を学修する科目群
DX推進に必要なビッグデータ分析力とAI実装力・
応用技能を修得

産学連携 PBL
地域課題解決型教育

コミュニケーションのスキルを学修する科目群
課題発見力、コミュニケーション力、リーダーシップ力、
国際的視野

課題の発見から解決、表現、実装までの実践技術を修得するための体系的教育カリキュラム

MDASH 修了証の発行

社会ニーズの高い実践的カリキュラム

オープンバッジ・国際的通用性の向上

高大接続強化

- 女子学生が多い商業系や実業系高校との高大接続授業および科目等履修制度
- 入試における優遇制度
- 課題発見・解決型高大接続入試の新設
- PBL成果報告会の参加体験を踏まえた入学者選抜
- 高校から大学院までの9年一貫専門人材育成プログラムを検討

多様な人々が集う価値共創の場 -メタバース・ラボ-

- 社会人と学生がともに課題解決に取組むPBLや協働研究のための実空間の設備
- 時・場所を選ばないバーチャル空間(メタバース・ラボ)の利用環境を整備・拡充し、教育・研究へ有効活用
- メタバース・ラボを用いた海外バーチャル留学

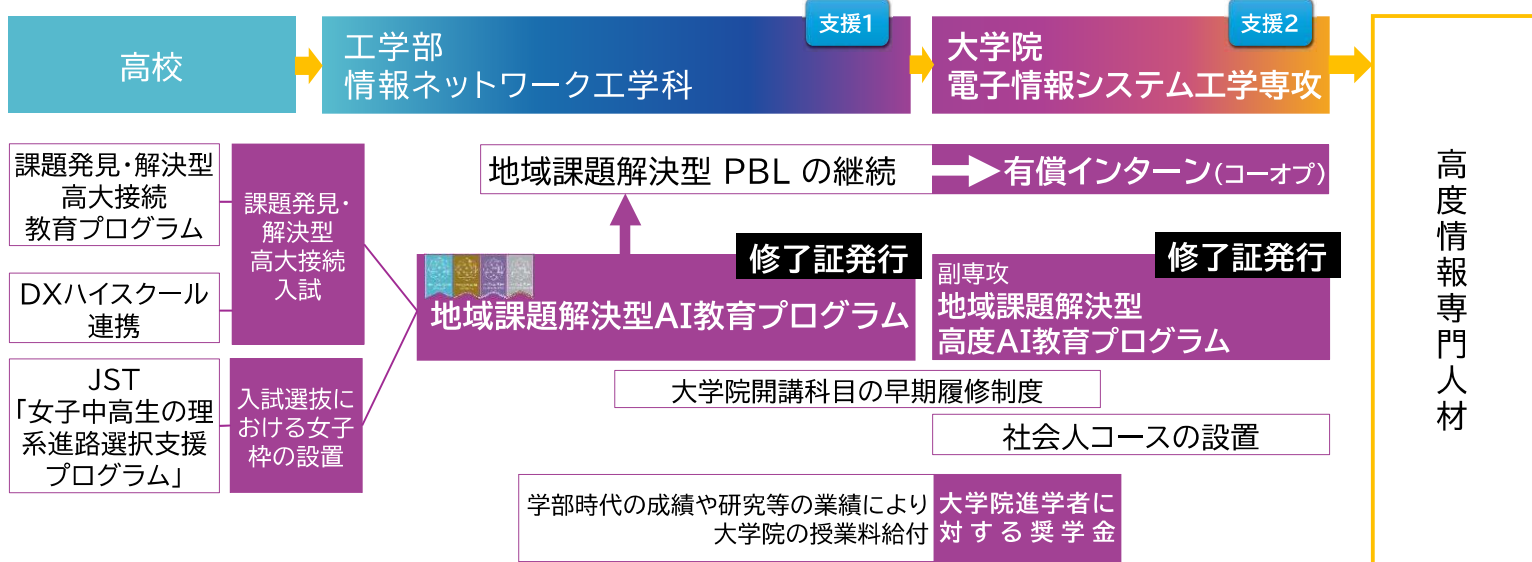
産業界・学外との連携

- 実務家教員によるオムニバス講義「先端情報技術」
- 社会的ニーズや人材育成に関する意見を聴取する協力体制
- 経済産業省策定「DX推進スキル標準」を満たす人材育成
- 地域高等教育機関に向けたAI・DS教育支援および連携
- 異分野大学と連携した課題解決型PBLによる地域貢献

PBLを核とした地域課題解決型教育の自走・深化

- 多様な分野における地域課題をAI技術で解決するPBL
- 地域課題解決型AI教育プログラムの実績を活かした共同研究・受託研究への発展
- 寄付金オンライン収納サービスの導入や地域連携活動の強化による地元企業・卒業生からの寄付金、科研費申請増加等による外部資金獲得強化

支援1・2をエンジンとした9年一貫教育



DXハイスクールを中心とした初等・中等教育との連携

- AIや工学をテーマとした探求型高大接続教育プログラムを展開。高校における総合的な学習(探究)の時間の代替としても位置付け、総合型選抜において「課題発見・解決型高大接続入試区分」を新設。プログラム修了者が出願
- 本学のAI教育プログラムの知見を高校の情報Ⅱの内容として提供。DXハイスクール選定校と密接な協力関係の構築
- JSTリケジョプログラムへの参画による女子中高生の理系進路選択の支援

ウェルビーイング工学によるAI/DX推進人材育成のPBLプログラム

- 数理・DS・AIに関する素養を備え、AI・データ分析×well-being工学を専門とする、経産省策定のDX推進スキル標準を満たした、社会のあらゆる分野で活躍できる情報専門人材を育成し、一人ひとりの多様な幸せ(well-being)と課題への挑戦を実現する教育・人材育成を具現化
- 地域の特性や強みとデジタル技術の掛け合わせによる異分野融合の視点を育む、データ駆動型社会に必要な実践技術を学ぶための授業科目として、社会人との連携によるPBL科目「AI実践プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」や「プログラミング」「データサイエンス」「ビジネスデータ分析」などのAI・DA科目群を整備
- メタバースを用いた異分野・異年齢連携可能なバーチャル環境を整備

＜基本情報＞
改組予定年度：令和9年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：健康データ科学部（仮称）
健康情報科学コース・健康データサイエンスコース
入学定員：100名
所在地：佐賀県佐賀市神園

地域企業、公共団体、協
定協力大学との連携

理論と現場に強い
教員団の編成

充実した実践的
カリキュラム

健康関連科目

推薦入試

ディプロマ

リケジョ支援事業
対象(小・中・高校)

人と人、人とITをつなぐ

令和6年度
心理学
社会学
デジタル社会共創学環
5学部7学科1学環

○心理学・社会学を基盤にした
コミュニケーション力育成
○高いIT操作・活用力育成
○PBLによる課題解決力
○データサイエンス基礎科目履修

令和5年度
西九州大学
5学部7学科

健康データ科学部（仮称）
健康情報科学コース
健康データサイエンスコース

新生西九州大学スタート
令和9年度開設予定
人々をつなぎ社会の未来を拓く

○コミュニケーション科目
○実践PBL科目
○データサイエンス応用基礎科目
○女性の社会活躍支援科目
○AI、IoT、XR等先端科目
○健康関連基盤科目

西九州大学のデジタル教育

【事業概要】
AI及びデータ駆動型社会において新たな価値の創出や地域の改革を牽引する人材育成のために、本学の強みである既設学科の健康に関連する専門分野とデータ科学を掛け合わせた入学定員100名、収容定員400名からなる健康データ科学部（仮称）を令和9年度に開設予定である。この人材基盤には世界の多様な人々を繋ぐとともに、人とIT、人と地域を繋ぐことができる力が必要であるとの考えに基づきフェーズ1の期間中(令和6年度)に文理横断のデジタル社会共創学環を開設し、データ科学の教育研究のノウハウを蓄積、発展させて新学部開設に繋げる。目標は高齢化が進展する予測不可能な社会において健康・医療・福祉・教育等における地域の喫緊の社会課題解決にデータを駆使して果敢に挑む専門人材である。そのために企業、地方自治体や諸団体と協働して取組む課題解決型のPBLを重視し、問題発見から、可視化、社会実装まで解決への実践技術を修得するための体系的な教育課程を構築する。「数理・データサイエンス・AI」の応用基礎レベル認証の科目も設定する。連携協定を締結している国内外の大学、企業や地方自治体とはインターンシップや卒論ゼミ等でも産官学の連携教育体制を構築するとともに研究面でも協働する。これによりAI活用力、ビッグデータ分析・活用力、コミュニケーション力、リーダーシップ力や課題解決力等を修得できる。リスクリングもこれまで同様に継続して実施し、地域のDXの推進に貢献する。

健康データ科学部
2027年6月設置計画
私に、データは翼をくれる

データで課題が
解ければ、
未来社会は自由自在！

健康データ科学部
2027年6月設置計画
私に、データは翼をくれる

西九州大学
リスクリング
リレー市民講座
DX社会で活躍する基盤をつくろう！
開講期間 2025年4月～12月
開講講座 5講座（裏面参照）
受講料 2,000円（1講座4回）
会場 西九州大学佐賀キャンパス
定員 各講座20名（先着順）
申込 各講座開始1週間前までにQRコードよりお申込みください。

西九州大学
関講スケジュール
1.eスポーツとタバターの新しい社会／オンラインコミュニケーションと健康
2.市販ソフトにチャレンジしよう
3.AIを知って利用しよう
4.ドローンを理解し、飛ばそう
5.ECT技術と健康管理

西九州大学
リケフェス
女子中高生のための
理系進学で広がる未来
10.27 佐賀大学
10.18a 佐賀大学

西九州大学
STEAM
STEAM Girls' Consortium
STEAM Girls' Consortium

<基本情報>

改組予定年度：令和9年度
改組内容：既存学部における学科の新設
設置等組織名：健康栄養学部 地域・医療・食品・健康・データサイエンス学科（仮称）
入学定員：【R9新設】50名
所在地：宮崎県宮崎市

フルーツフルみやざきDX人材：FMDX人材
フルーツの実り豊かな宮崎県は、サンサンと太陽が降り注ぐ日向（ひなた）の国。そんなカラフル（Colorful）で、実り多い（Fruitful）な多彩な才能（Talents）をもったDX人材を育成します。

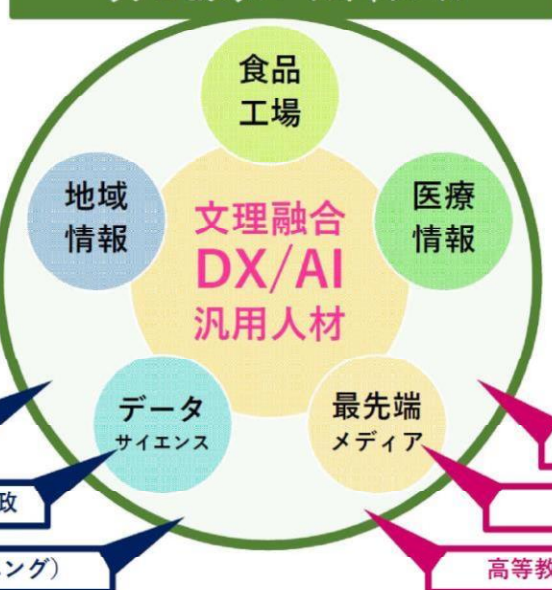
コンセプト：フルーツフルみやざきDX人材の育成 Fruitful Miyazaki DX Talents

食と医療（新たな健康情報学）、最先端メディアと食（SDGs）などダブルメジャーを志向しAI・情報工学を取り入れた履修プログラムを構築し、オンデマンド講義と実務家教員による実践的な演習授業を組み合わせ、更にメタバースキャンパスも構想することにより、文理を超え地域・産業に貢献する汎用的IT人材を育成。

宮崎県のDXに関する地域ニーズ（申請要件③、⑦）

- 宮崎県は「みやざきフードビジネス振興構想」（R5年改訂）を策定、持続可能なフードビジネスの発展を目指している。
- 宮崎県の農産物産額は全国4位、一方、食料品製造業出荷額は全国27位で、製造業の高付加価値化が課題である（新たな6次産業の創出）。
- 「（AI、IoTなど）使いこなせる人材がいない」と回答した事業者は、生産・製造業で32.4%、流通・飲食サービス業で50.9%というIT人材不足。

リアル&メタバースキャンパス



PRポイント：オール宮崎（申請要件②、④、⑤、⑪、⑫）

- 高等教育コンソーシアム宮崎は、社団法人化など連携を強化。
- 宮崎大学、宮崎国際大学、宮崎学園短期大学、南九州大学は、SPARC事業（R4）で共同プログラムを展開。
- 健康栄養学部は、DX専門人材育成事業（R3）で、食品分野におけるDX人材育成でユニークな教育を展開。
- ステークホルダーである地域の産業界、食品業界と地域行政との関係（リカレント教育・共同研究開発）を強化し外部資金を確保。
- 中堅文系人材の地元大学進路を確保。

県内中高（入学者）

地元経済団体（ステークホルダー）・行政

食品産業界（就職先・新たなポジショニング）

SPARC参加大学（共通科目）

連携推進法人（大学運営の連携）

高等教育コンソーシアム宮崎（教員派遣）

PHASE 1 特筆すべき取組 大学間・高校・市民・企業との多面的連携

ACT 1 連携推進法人設立（申請中・R7年度～）



県内大学が一斉に連携

一社）高等教育コンソーシアム宮崎は県内全11高等教育機関による連携推進法人設立を申請中。

R7年度から宮崎県内の高等教育は、オールみやざきで未来の宮崎づくりに始動。

令和4年度_地域活性化人材育成事業～SPARC～との連携

ACT 2 DXハイスクール支援プログラム



高校とのDX連携

県内DXハイスクール採択校、検討校に向けた支援プログラムを開発。積極的な連携を推進。

その広報をおこなうために、R6年10月、県内高校担当者向けの説明会開催。学内HPで支援申込サイト立ち上げ完了。

ACT 3 新学科設置記念市民公開講座 南九ダイアログ



社会ニーズとの対話

「あたらしい教育の姿」を求めて、杜氏、教育Youtuber、インクルーシブ教育、デザインシンキングに関する専門家との対話をYoutube LIVEで全6回開催。

社会ニーズの発掘と新学科の情報発信。ニーズに合わせた教育に転換する視座を蓄積中。

ACT 4 デジタル人財スキルアッププログラム 食品評価セミナー（R7/2開催）



地元企業とのDX連携

県内食品企業の現場ニーズに対応するリスキリングプログラムを宮崎大学との連携で開発中。

18歳人口に頼らない、リカレント教育の可能性について検討中。R7年2月、県内食品企業を対象に試行プログラムを実施。

令和5年度_地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援事業との連携

<基本情報>

改組予定年度：2026年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：データサイエンス学部データサイエンス学科
入学定員：【R8新設】160名
所在地：福岡県福岡市博多区

始動するデータ駆動型社会で活躍するデータプロフェッショナルを養成

データプロフェッショナル（データエンジニア、データアナリスト、データサイエンティスト）を九州で養成し、九州の地方創生を支える

九州中心都市の刺激を受けながら先端教育環境で時代を牽引するデータプロフェッショナルを目指す学生を歓迎します

博多大学は、社会と連携した学びと研究を通じて学生の実践的な課題解決力を涵養します。産業界や地域社会との密な連携教育を通じて、学生が実務的なスキルや知識を習得する機会を提供し、自らの意志で地域や世界の課題に取り組んで解決する力を育みます。

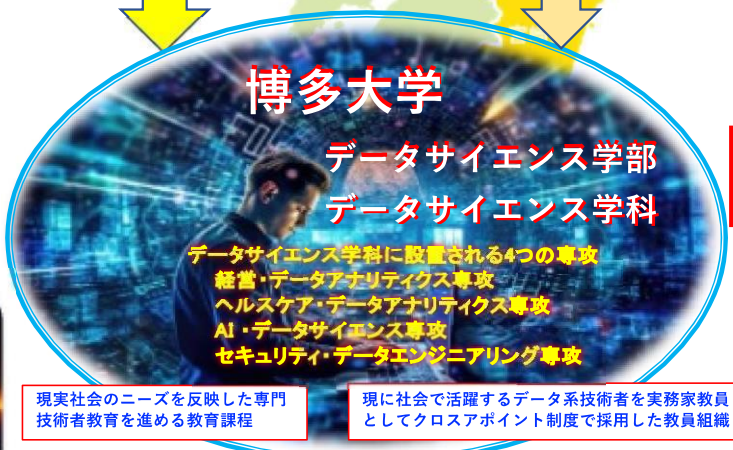


企業経営におけるデータ駆動型意思決定を支援する経営・データアナリストの養成

経営・データアナリティクス専攻

文系・理系の別なく広く募集する入学者選抜

地域のICT推進企業(実務家教員)、協力大学の教員団を編成



AI・機械学習による分析モデル構築で課題を解決する予測モデル・データサイエンティストの養成

AI・データサイエンス専攻



ヘルスケア産業におけるデータドリブン改革を担うヘルスケア・データアナリストの養成

ヘルスケア・データアナリティクス専攻

現実社会のニーズを反映した専門技術者教育を進める教育課程

現に社会で活躍するデータ系技術者を実務家教員としてクロスアポイント制度で採用した教員組織

数理統計、データエコシステム、系統的な学習を基礎に
・経営・データアナリティクス科目群
・ヘルスケア・データアナリティクス科目群
・AIデータサイエンス科目群
・セキュリティ・データエンジニアリング科目群
を、学外機関との共同PBL実践演習で学ぶカリキュラム編成。

情報セキュリティを担うホワイトハッカーたるセキュリティ・データエンジニアの養成

セキュリティ・データエンジニアリング専攻



令和6年度の取り組み（大学設立に向けた事務作業の推進）

令和5（2023）年8月～令和7年8月 設置準備室の開設、および設置認可申請作業の推進。学生受入準備の推進。
令和5（2023）年11月～令和6年5月 本部棟の改修工事設計、教養棟の改修工事設計、学部棟の新築工事設計。
令和6（2024）年2月 指定寄附により（一社）博多大学設立準備会（学校法人設立準備法人）に土地・建物・設立準備金の収納。

令和6（2024）年10月 設置認可申請

令和6年度の取り組み（校地・校舎の整備作業の推進）

令和6（2024）年2月～7月 本部棟校舎の改修工事
令和6（2024）年6月～令和7年3月 教養棟校舎の改修工事
令和6（2024）年10月～令和8年2月 学部棟校舎の新築工事
令和7（2025）年7月～10月 マルチパーパスグラウンドの整地

